# お彼岸

岸 (ひがん)と

放

ほ う

午前九時より九月二十三日

日

永代供養墓秋彼岸法

秘在寺

# 彼岸だよ



。岸感時

で中月岸九 す日二の月 は十入二 二六り十 十月、月 -三 水 け 大 大 大

ではが お九彼

平成 30 年 9 月 11 日発行

冷泉山 秘在禅寺

住職 武山清堂 副住職 武山一堂 〒 421-2105 静岡市葵区郷島 562

電話 054-294-0542 054-294-0709 Fax info@hizaiji.net

http://hizaiji.net/

http://ashita-an.hizaiji.net/

の末必を絶良く

鎖結をさ息

りのの、私中で死感えく開以 が命尊い達でしにじて見け前 をさたは生た燃まおる目秘いにだ食き。やしりとを在 。とう」という思いが込められておいても」という思いが込められておいては食事をすることばです。「あなおり、何とも言えない深い哀れさました。全ての生き物はこの食物連鎖性きております。 とうと口に鮒(フナ)を詰まらせて息は食事をするときに「手を合わせただきます」と唱えます。ときてが良れされただきます」と唱えます。といただきます」と唱えまい深い哀れされば食事をするときに「手を合わせ」とう」という思いが込められております。

金魚屋さんで鯉と鮒を一にネットも張りました。して欲しいと願いつつでして欲しいと願いつつでおおようになりました。外です。少くの命の犠牲(いけにきいる言葉で「放生池」と言われば放生(ほうじょう)といる言葉で「放生池」と言われている私達の命です。少くの命の犠牲(いけにきいるがと)といるがです。少くの命の様性(いけにきいるがと)といるが、と言われている私達の命です。 なはせ

あた命て

ざをお会な業た方物さ だを 鬼いかり・おて、旧はいの年まり年厳日、 た質が職した質がでは、 に質がでは、 にはでは、 を関いては、 を関いては、 にはでは、 にはでいたが、 を対いたが、 を対いたが、 を対いたが、 を対いたが、 を対いたが、 を対いたが、 を対いたが、 を対いたが、 のいたが、 のいが、 のいが で所だんの他 とおだ施 しできのおに う言い餓 たのま奥供た

れ毎き捕匹 て朝くら買

小世しよ 旗話たうに を人作さ つん てに 施 いは た竹 作し様えく







9/3 撮影、墓地参道わき

# 施 餓 鬼 会

と用いにテい味 買イつ深豊つ宗浜 すのいッたく富い師松 なてに市 立るか置シら っていただきましたのお寺が見っ 0 にせるに住職 して興

場ないのでは、お話をして、お話を順っている。というないでももいった。というないでは、お話をして、お話をして、お話をして、お話をして、お話をして、お話をして、お話をして、お話をして、お話をして、お話をして、 何をすべきか、まかけてはおりまれるという、非常けるというに備えるというに備えるというに備えるというに備えるというに確立される。 にいのま合寺す出きしまえ非 つ族がししはしを常 、多た。 。てで 、袋 に講お話寺を古め

あ末つ話りし 内す て せは容

# お 盆を 終 え 7

#### 塔 婆供 養 に つ 11 7 0) お 願 11

下新塔「申 さ盆婆先込 いいの一祖用 お基代紙 お宅は、新亡霊位基につき一霊ご記れ代々」または「故紙に 位 八下さ 0 戒名をご い戒 。名 を、

おきま

L

を※新 記※亡 入家霊 先位 祖の 代戒 八々と新八名を記れ 入し 7 位 戒

0

戒はせと塔の名、仏戒波ケ ん戒婆ケ と先。名一一さ祖新の基本 せ代盆両にが て々の方つ見 いただきました。のお宅で一枚に書いてありま一霊ですのかった。 いってもなってもなってもなってもなってもなってもなった。 新みは先 亡ので祖 霊場き代 位合ま々

### 棚 経 15 つ 7

下せのい ーさんでま日 い。、す程 ま当い は す日つ町事 よ不も外前 う在おのに おの待檀盆 願場た家だ い致し、ははないでは、様はないでは、様はないでは、 し、て広で ま事申いお す。前し範知 に訳囲ら ごあをせ 連り回し 絡まるて

#### 山 新 七 市 内駿 養に 河 区参 向加 敷し 地て

月

とし

し新山 でた亡妙新 上はとに、二 りと二 一に感 そ人し人 と僧 慨のでた京 深主
ま。都 て侶 深主ま 都 のかもに い人い義の ものり母大 の供まの本

んかしが眼いで読とたまなみおび差る胸経本な さびとした様子な連んで下さる若い すことが をただ る見天景勢よて井はの できました。 いき うもに を見て、 出な しが 5 背鋭れ勇よ 筋いて壮る

> と厳 して今、したい回感い 7 こました。 いるからこ

ませて とてもよ ありが い経 とうご を

す月た 本 会本三う 山月 供 のにま 通届で養 知けに会 がま亡 直すく 接とな 該 16 当五れ

る大た異で緒導 切方な行に師供る頃方前山 なのるわ龍を養おにを年新 方身のれのな会宅「年度亡 く縁参。画、催き供めかん しの列供で本はま養にらも したという感情を共有すの深い方であることです。例者がすべて亡くなられ供養会が、普通の法事とで有名な法堂(はっとう)本山の大勢の和尚様と一本山の大勢の和尚様と一本山の大勢の和尚様と一本山の大勢の和尚様と一

## 災 害 救 援 金 協

う島と二十 策豪本でに続十年西 一枚本雨山すなき一七日 号月本 、京豪 豪豪 H し本北雨雨 まは海 つ災道 た害地台成 よ列震風三

0

て

国かれ対本 万援部の妙 しがげ災西

深円金が後心 刻送の立 なり要ち自で 被ま請上然は がたあら害日  $\bar{\circ}$  ŋ あ つ妙ま た心し そ寺派 寺た。 でで秘すは在 四寺

たも心修 だきまし、感動いたのができません。 様いた

- 2 -

# お 願 l 1

ご転固秘● 連居定在連 `電寺絡 下住話へ先 さ所をおが表外知変 かった。 更携下た の帯さ場

方● へ付 け 届 け を 振 込 で 納 入 V ただ 7



機月催

小四郷

運日土

動(日を良

<u>\</u>

天

時

は

育

北十

五

回

l

ず

ŧ

た

٦

だ

7

ル

シ

解色いい <u>~</u> をにしま今 おなましま 願りすたで "いま<sup>°</sup>が振 しす従 认 。つ今手 ま す。申て後数 し振は料 訳込各は あ用自秘 り紙で在 まがご寺 せ赤負で んで担負 がなを担 ごくおし 了青願て

### À E D 自 動 体 外 式 除 細 動

°た事在すDとす多秘速の違なでを会 致どだを寺るは考るく在に誰いりは設の しうけ皆に事一えにの寺対か、ま消置皆 まぞれ様設が分まは方は応が秘す防す様 。団るの よばで置大でし最が行すお在 ると共さ事もた適集事るり寺常詰運ご し思有れで早。なまやとまは時所にとり る葬が 場儀がの年錠継なに で問さぐりより で法 す。のしい所た在 で 際てる目 る はほ詰の郷に

よぼ所設島A

場め内

おまてい。使A所設外まり寺と置町E町

願すいる秘用Eだ置のた迅族はと内D内

の場合など速やかに常のみになさった方さい。 11 来族にに 募べつ楽回回市 場やごないり物たし数よ 第 賎十主

、数んをりと四 さ友の事もし野々で重マい回 い達あと以た菜のいねルうま やワたてシ名で雑一だきェでは 貨クけまへ行フ 等シるし市つり いプ `にり1 出や例さ変まケ 店美年らえしッ 者味ににまたト もしは皆しがへ 多いな様た く食かに

物が

今す

は今

十ま

口

下お縁るつま をると上 お方思に 誘のい充 い出ま実 い店すし たも だあ檀楽 きり家し ま様い どすやイ 。 秘ベ う ぞご在ン 家寺ト

#### ラ ス また時連 し望間覇 ヤ た月五し、 プパ 将十 スン 前悟二前 回さ分回 V もんと十 1 彼がい六 ス 、う年

岸

だ五大大

よ度会会

てず挑元がり目記で いつ戦の `にの録はT まと「ヒ今載大を四J し様と「回せ会打日A た子あロもまにち二R をつし「し挑立十を 見ての地たみて三四



る期ら

な待な五

かする連

望声記や

月も録

る新覇

下たたに籍王選 励からすらのん にけ他。つ選の 記 に 発 行 と に 発 行 と に 発 行 と 行るの私し手中 載スケと溪 っと選たやをに た、手ちる見も 、将い た ついれ谷宣て り慌のもこか望 して通二とけ月 まいしかと てる階とた選

Number Web

https://number.bunshun.jp/articles/-/831704

体重 2.8kg 減、ザック重量 5.1kg 減。 TJAR「無補給」の末に見えたもの。

た時がえ。す人日援今 そ過つた勤。だ十に回 うぎらそ務応か一出も 位っす消てで頃たり でて °防いきで °旗 しゴレ足署る

まーまがで人通安島作 しルい痛はが過倍をつ まそ二多車街通て しう百か両道過野 たで人つものし田 が見ほた多そた平 てどのかこの公 午いがでつこは園 後る出すたこ十へ



五で キはを以がと買のを戻かで手 ロ五全外 、にい山掲つつ誰は **~ 部のおな物小げたたも今** ら六背装金っし屋まチーや大 てやしゃ山る会 たつい給すよい傚心ン… 。たっ食水すこで中<sup>L</sup>になま つい給ずまい機途ジ点のれ

たし四方迎ねでに八応

心でて

#### 災害時のお寺が果たせる役割

8月10日秘在寺施餓鬼会講話

講師:浜松市 曹洞宗 大昌寺副住職 青島寿宗師

青島さんは30代中頃の和尚さんで、東日本大震災の折に発災当時から3年間現地で「シャンティ国際ボランティア会」の職員として活動なさった方です。実際の活動を通じて体験し感じ考えたことを、分かりやすくお話しいただきました。下記に要点をまとめました。

[この地域で考えられる災害]

地震、暴風、豪雨、洪水、落雷、竜巻、火災、土砂崩れ。

#### 「静岡県地震の歴史]

白鳳地震684年、永長地震1096年、明応地震1498年、慶長地震1605年 宝永地震1707年、安政東海·南海地震1854年、東南海地震1944年。

[寺院備災の教訓] 備えておいてよかったもの、備えておけばよかったもの

- ・建物の耐震診断、仏具や備品の管理
- ・水(井戸)、発電機、石油ストーブ⇒命を守る
- ・寺院の備蓄や規程などの見直し
- ・災害想定の確認、対応できることできないこと

「避難所運営のポイント(不安を和らげる)]

- ①明るい
- ②空腹を満たす
- ③暖かい
- ④情報がある

「東日本大震災の時、寺院が果たした役割」

- ・避難所として被災者を受け入れ
- ・物資配布、炊き出し活動
- 集会所、催しの会場として
- ・ボランティア団体や支援の拠点

#### [東日本大震災時の寺避難所]

全体の約半数が自主避難所になった

本堂は畳が敷いてあり、仏さまがいらっしゃる(安心感)

また青島さんも作成に携わった『寺院備災ガイドブック』という冊子があります。今後これをさらに活用していきたいと考えております。昔から言い古されたことわざではありますが「備えあれば憂いなし」お寺の備災も同じです。

「自然の力は変えようがないが、社会の対応力・適応力は変えられる」と、そして最後に「どんな状況にあっても(そこにお寺があって良かった)と言われるようなお寺を作っていきたい」とおっしゃっていました。大変有意義な、そして重たい課題をいただいた講演でした。ありがとうございました。